自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400642		
法人名	サッポロ・ライフケ株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家琴似		
所在地	札幌市西区八軒3条東2丁目2番12号		
自己評価作成日	令和7年2月24日	評価結果市町村受理日	令和7年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0170400642-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と向き合い、そして受け入れて最後まで本人本位の生活が送れるように支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな通りのバス停から徒歩5分程度、JR琴似駅からも徒歩圏の住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。近くに中規模の公園があり、気軽に出かけ住民や子供たちと交流することができ、もう少し歩けば、琴似エリアの昔からの商店街にも行くことができる。建物内は1階に3つの居室と居間兼食堂、浴室などがあり、2階に6つの居室が配置されている。共用空間には利用者の手作りの装飾や作品、動物の写真などが飾られ、親しみやすい雰囲気となっている。安定して長く勤める職員が多く、職員同士のコミュニケーションが良好である。新たな管理者も運営やサービスの向上に意欲を持って取り組んでいる。1階の居間で過ごす利用者が多く、レクリエーションなどに参加し活き活きと過ごしている。ケアマネジメントの面では、介護計画の見直し時の評価表、会議録などが整備され、利用者に合わせた介護計画が作成されている。医療支援の面では、往診体制や訪問看護の体制を整え、タブレットによる受診内容の共有もを行っている。入浴支援では、週2～3回を目処に入浴できるようにし、入浴剤やゆずの使用、湯加減の調整など、快適に入浴できるようにしている。利便性の高い環境ときめ細かな支援のもと活き活きと過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームから見える場所に掲示し、朝の申し送り時に唱和して、共有し実践している。	「尊厳と人権の尊重」を主要なテーマとした事業所理念を作り共用部分に掲示するとともに、申し送り時に唱和している。一方、理念の中に地域密着型サービスを意識した文言や内容は含まれていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた文言や内容を理念の中に加えるか、文言や内容を含むケア理念やケア目標などを作ることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴や散歩時に挨拶を交わしている。また、除雪作業等を協力して行っている。	利用者が散歩をする際に、住民と一緒に歩き交流することがある。また、住民と一緒に除雪をしている。事業所へのボランティアや子供の来訪はないが、感染症が落ち着いたら招いて交流したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症などの感染状況を考慮しながらホームの見学を受け入れている。また、他の介護サービスの説明や提案もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を書面で開催し、行事や利用者の状況等を報告し、構成員の方々より評価、助言等を、電話や書面で頂きサービス向上に活かしている。	2か月ごとに会議を開催し、地域包括支援センター職員、民生委員の参加を得ているが、家族の参加は得られていない。内容は報告事項が中心で、計画的なテーマの設定は行っていない。議事録を家族に送付している。	会議に家族の参加が得られるよう、働きかけを期待したい。また、年間を通して計画的にテーマを設定し、テーマに関する簡単な資料も用意して話し合うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の生活保護担当者と連絡を取り協力関係を築けるようにしている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て情報提供を受けている。区役所に生活保護やサービス評価に関する相談を行っている。最近、区の管理者会議が再開されており、今後出席を予定している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化に向けた指針を策定し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会を2か月ごとに行い、委員会時に勉強会も行っている。委員会や勉強会で身体拘束の禁止事項を確認している。今後は勉強会に関するレジュメや資料を別途綴り、保管する予定である。玄関は日中も施錠しているが、利用者の外出希望があれば同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の指針を策定し虐待防止に努めている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	感染症などを考慮しながら外部研修などに参加できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後も不安や疑問があれば何度でも説明させて頂き、理解・納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や家族来訪時に近況報告等を行い、意見や要望を伺っている。	家族との面談時や電話した際に意見や要望を聞き、得られた意見を「申し送りノート」で共有している。毎月、利用者の写真を多く載せた「虹の家だより」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や会議時に意見、提案を聞き反映させている。今年度は2階の共有部に加湿器を設置した。	全体会議は不定期であるが、毎日の申し送りを時間をかけて行い、活発に意見交換している。管理者と職員の個別面談を半年に1回行っている。職員は行事や室内装飾、災害対応などの業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の他に夏季、冬季休暇を3日ずつ取得できるようにしている。また、年末年始に勤務した職員には手当を支給し環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症などを考慮しながら外部研修などに参加できるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症などを考慮しながら交流を深めて、サービスの向上に役立てていきたい。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えにしっかりと耳を傾け、信頼関係を構築できるように努めている。また、訴えることが苦手な方には隣に寄り添う等している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学の段階から家族の不安や要望に耳を傾け、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から話を伺い、必要としている支援を見極めるように努めている。また、他介護のサービスの利用が望ましい場合なども助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に様々な事を行い楽しい時間を共有できるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やご家族来訪時等に普段の様子を報告している。また、ご家族と一緒に病院受診している方も多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会という形にとらわれず電話で話すことができるように支援している。	1名の利用者に友人の来訪がある。親戚から手紙が来る利用者があり、返事作成の希望が出れば支援する準備がある。2名の方が事業所や家族の送迎で行きつけの美容院に通っている。隣の喫茶店に通うことを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを通して他者と楽しい時間を共有して頂けるように努めている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き退去となった利用者様が、療養目的で転院する際に面会に行ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動などから希望、意向の把握に努め本人本位の生活が送れるようにしている。	半分ほどの方は言葉で思いを表出でき、難しい方も表情や過去の経験から把握している。フェイスシートに生活歴を記載している。趣味や嗜好は課題分析シートの下段部分に記載する予定である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を伺い生活歴等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残したり、連絡ノートに記載したりして利用者の状態を把握できるように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は本人や家族から意見を伺い、反映できるように努めている。また、職員の申し送り時等に意見交換を行い反映させている。	介護計画を6か月の期間で更新している。見直しの際の評価表、会議録が整備されている。一方、タブレット端末による日々の記録では、計画目標を意識した記録を十分に行えていない。	日々の記録について、計画目標に関する実践や結果、気づきなどの記録を行えるよう、記載方法の工夫や記載に関する意識づけを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に実践・結果を記載し気づきや工夫を個人記録に記載して介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望等に応じて散歩や外気浴が出来るように支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の希望等で買い物や近隣の理容室に行けるように支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療により体調管理している。また、体調に変化があった場合は報告し指示を頂いている。	協力医療機関による月2回の往診を受けている。通院は主に家族が対応している。受診内容をタブレット端末に記録し共有している。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時に様子を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には担当医に当施設から情報提供をしている。また、早期退院ができるように病院関係者、家族と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し、入居時に本人や家族に説明し意思を確認している。また、いつでも、変更できることも説明している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意書を得ている。最近の看取りの事例はないが、今後条件が合えば行う方針であり、その際は看取りの研修も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し全ての職員が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を定期的に行っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、地域の方の参加は得られていない。消防や防災会社の参加依頼を行う予定である。職員の救急救命訓練を予定している。地震発生時のケア場面別の対応や危険箇所の確認は行っていない。	避難訓練に地域の方の参加が得られるよう、働きかけを期待したい。年1回程度、地震発生時のケア場面別の対応や危険箇所の確認の話し合いを行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しっかりと理念を理解し声掛けも意識し行っている。	利用者を尊重した対応を、管理者は常に指導している。申し送りはイニシャルで伝え、記録類はタブレット端末で行いプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望によりパンを提供するなど食事のメニューを変更している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを尊重し過ぎて頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で買い物に行ったり、ネット通販等も利用して、ご自身に好きな洋服を選んで頂いたりしている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮し調理法を変更したり、盛り付けや食器拭きを一緒に行っている。また、利用者様の希望により主食をパンに変更して提供している。	食材会社より調理済みの副食を取り入れ、昼食は事業所で作っている。年間の季節料理を多くし、誕生日や行事には赤飯や寿司類、またパンのバイキングは好評である。利用者は自分用のおはぎを作り調理やおやつ作りに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の希望によりゼリー、ココアやスポーツドリンクなどを提供している。また、食事量が減っている方には栄養補助飲料を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に合わせてスポンジを使用したり、定期的に訪問歯科受診をしている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め声掛けトイレ誘導している。	全員の排泄を記録し、約半分の方は自力で行い、車椅子使用の方も日中はトイレに誘導している。夜間もほぼ全員がトイレを使用しており、声かけや介助では羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操等の運動とオリゴ糖の摂取を組み合わせ便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は週2回午前中の中の入浴だが、希望により入浴回数の増減や午後からの入浴に対応している。また、入浴が困難な利用者様はシャワー浴や全身清拭を行っている。	入浴日を決めず、午前中の時間帯に週2回～3回の入浴を支援している。嫌がる方は曜日をずらして入浴につなげている。身体的な状態で1名はシャワー浴を行い、他は湯船でゆず湯や入浴剤を使用し、職員と会話を楽しみ気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣などに合わせ自室で休息を取れるようにしている。また、本人の様子から休憩を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表を作成し理解できるようにしている。特に薬剤変更の場合は服用後の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニマトの苗植え、チューリップの球根植え等を行って頂いている。また、ぬり絵、麻雀やトランプなどができるように支援している。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症などを考慮し、家族の協力を得ながら外出できるように支援している。また、日常的に散歩や外気浴を行っている。	日常的に車椅子使用の方も一緒に周囲や公園などを散歩している。プランターでの野菜や花の栽培をしたり、外のベンチで外気浴を楽しんでいる。家族と外出する方もいるが、徐々に隣にある喫茶店の利用や外出行事も考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームで管理している。また、感染症などを考慮し、ご本人の希望で買い物に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話できるように支援している。また、家族から手紙が届いた場合は本人に渡ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や観葉植物を育てており家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるようにしている。また、ひな祭り等、行事の際には飾り付けをして季節感を感じて頂けるようにしている。	アパートを改造した1階に3室と居間兼食堂、台所、浴室などがあり、居間に面している事務所から全体が見渡せる。2階に6室とトイレがあり、エレベーターで移動ができ家庭的な造りになっている。居間の壁に利用者も参加した桜の作品や利用者の書初めが飾られており温かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他利用者様の居室を訪室したり居心地の良い場所があるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に自身で作ったジグソーパズルやちぎり絵を飾ったり、家族からのプレゼントを飾ったりして心地よく過ごして頂いている。	居室には大きめのクローゼットの備え付けとベッドが用意しており、物が整頓されて安全に移動ができる。室内に椅子などの家具や小物類が持ち込まれている。壁には本人の作品や職員からのお祝いメッセージなども飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下には手すりが付いていて安全に移動できるようにしている。また、シーツ交換等の寝具の交換も一緒に行っている。		